さくら咲き　心地よいまち　ずっと　めぐろ

# MEGURO

— めぐろ区報 —

8/15

令和3年（2021年）
No.2116

# 平和をつなぐために、私たちができること

## 新型コロナウイルス感染症対策関連情報

6面　新型コロナウイルス感染症と診断されたかたと濃厚接触した可能性のあるかたへ
12面　重要 12～39歳のかたの新型コロナウイルスワクチン接種予約を開始しました

★緊急事態宣言が延長されました。原則、区のこれまでの対策を継続します。詳細は区HPをご覧ください

**発行**／目黒区　**編集**／広報課　〒153－8573 目黒区上目黒2－19－15　☎3715－1111（代）　FAX5722－8674（広報課）
毎月2回（1・15日）発行　**区ホームページ**　https://www.city.meguro.tokyo.jp/

区ホームページ　区公式YouTubeチャンネル めぐろTV

# 平和をつなぐために、私たちができること

今年8月15日は、76回目の終戦記念日です。昭和、平成、令和へと時代は移り変わり、過酷な戦争体験をしたかたの話を聞く機会は年々減っています。未来に向けて平和な日々を守るためにも、戦争の記憶を受け継いでいかなければなりません。

2年前に、区が主催する事業「平和の特派員」で広島市を訪問した中学・高校生と、小学生のとき疎開先の広島市内で被爆した谷口正次さん(目黒区在住)が「戦争と平和について、今思うこと」を語り合いました。世代を超えて、今ある平和について考えます。

問総務課総務係(☎5722－9205、FAX5722－9409)

**平和の特派員**

区は、次代の平和を築き担う子どもたちを「平和の特派員」として、毎年広島に派遣しています。

令和2・3年度は感染症対策のため、派遣事業を中止しましたが、令和元年度は、24人の小・中学生が広島へ行き、平和記念式典への参列や被爆されたかたとの対談などを体験しました。

**谷口正次さん**(83歳)

1945年8月6日当時、父母の実家がある広島へ疎開。爆心地から1.8キロメートル離れた場所で被爆。

**目黒区公式YouTube「めぐろTV」**

被爆体験を語る谷口さんの動画を配信中です。ぜひご覧ください。

## 広島から帰って、私にできることは何だろうと考えました

**―平和の特派員の活動を思い返して、この夏、考えたことはありますか。**

**永田**　今はコロナの影響で自粛が求められている大変な状況ですが、2年前の夏は広島へ行って、いろいろな体験をしました。それは、とても貴重なことだったんだなと思います。そして、悲惨な戦争を体験した人や原爆の後遺症で苦しんでいる人が少なくなっていく中で、伝えていく大切さを改めて感じています。

▲平和記念公園に折り鶴を献納する永田さん(右)

**園田**　高校受験を経て、生活環境が変わり、昨年からのコロナの影響もあって、戦争や平和について考えることはほとんどなかった、というのが正直なところです。オンライン授業や分散登校、部活がなくなり、コミュニケーションを取る場が限られた状況で、私自身は自分のことで精いっぱいでした。でも、世界が平和な状況にないことは明らかで、こうした大変な時だからこそ、広島で体験した戦争の悲惨さや、平和の大切さは、自分たちが積極的に伝えていくべきだと思います。

**中川**　広島へ行く前は、戦争や平和といわれても実感が湧きませんでした。実際に原爆ドームや被爆した袋町小学校など、さまざまな場所を訪ねることで、当時の状況や原爆、戦争の悲惨さを知ることができました。でも、実感できたかというと、ちょっと違う感じがして。広島で私が考えたのは、今は平和って言われているけど、本当に平和なのかなということでした。

私は高校生になり、改めて平和とは何かと考えた時、人間が出してしまったごみなどが原因で生物がいなくなってしまう状況は、平和とはいえないのではないかと思ったんです。私は、平和を自分の身近なこととして考え、人間はもちろん、動物や植物と共存することではないかと思います。

▲平和記念式典に参加したかたへのインタビューなどをまとめた平和新聞を作成した園田さん(前列右)と中川さん(後列左端)

## 平和を培っていくのに一番大切なのは「愛」

**―谷口さんは、若い世代のかたの発言を聞いて、どう感じ、どう思われましたか。**

**谷口**　3人のお話を聞いてびっくりしました。皆さん素晴らしいです。戦争はだめで平和を守ろう、という単純なものではなく、終戦から76年たって、今や平和を脅かす問題が恐ろしいほど増えているのです。それは核兵器や紛争だけでなく、例えば、環境破壊や温暖化の進行、異常気象、生物多様性の危機など、生命を脅かす深刻な事態がどんどん進行していて、世界中で議論を巻き起こしています。

**―平和をつないでいくためには、何が大切だと考えますか。**

**谷口**　まず、中川さんがおっしゃられた環境、自然との共存はとても大切なことです。さらに私は、平和を培っていくのに一番大切なのは愛だと思います。人と人との愛、家族や社会への愛、生物や自然に対する愛など、平和を築き上げるには愛が必要です。もちろん科学技術も大切ですが、幅広い知性と視野が必要なのです。若い人たちには、科学だけでなく、文学や歴史、倫理学など文系の勉強も、両方バランスよくしていただきたいと思います。

## 自分で考え、意志をしっかり持って発言していきたいと思う

**―ここまで谷口さんの話などを聞いて、改めて平和について思うことはありますか。**

**永田**　広島へ行ったのは、小学生の時、図書館で読んだ「はだしのゲン」がきっかけでした。現地で聞いた原爆の被害は本当に悲惨で、これは伝えていかなくてはと思いました。でも、今中学生になって、正直、周りに原爆や戦争に関心のある人はいなくて、話す機会もほとんどありません。平和については、当たり前の日常があるのが平和なんじゃないかと考えてきましたが、皆さんの話を聞いて、そうじゃないんだな、と思いました。ただ、自分には平和とは何かが、まだよく分かりません。

**園田**　今の若者たちは、家では親任せだったり、スマホに頼ったり、周りに同調したり、あまり自分で考えないで行動しがちだと思います。自分で考え、意志をしっかり持って、発言していくことがとても大切だと感じます。

**中川**　祖母が東京大空襲を経験しているため、家族や親戚が集まると戦争について話す機会があるのですが、私は何が原因で戦争が起こるのか、いろいろな側面から考え調べています。中学3年の修学旅行で長崎に行った時、平和公園や資料館などを巡って、せっかく貴重な体験をしているのに、関心を持たない人がいて、残念なことがありました。私の班は議論もできて、みんなでレポートもまとめられたのですが、身近なところから平和を考える輪を広げていけたらいいなと思います。

**―谷口さんは被爆者として、今若者に伝えたいことはありますか。**

**谷口**　原爆やその後遺症についての悲惨さは、皆さんご存じだと思います。被爆して17歳まで広島で暮らした私が、今皆さんに伝えたいのは、広島の自然の変化です。当時、焼け野原となった爆心地は、「75年間は草も生えない」と風評されていました。ところが、翌春には緑の草木が生え、川には魚が戻り、虫も鳥もいました。原爆後も生態系が保たれ、豊かな自然がありました。なのに、今はどうかというと広島の実家近くの川は汚れて、魚もいません。私が伝えたいのは、核兵器だけが平和を脅かすものではないということです。自然環境の破壊など、もっと身近に平和を脅かすものは存在します。無関心が一番よくないです。生き物や命に対しての無関心、美しさに対しての無関心、一切の事柄に関する無関心、それは大人も同じです。無関心は現代社会にまん延していると思います。ですから、若い人にはいろいろなことに目を向け、興味を持って思考力を磨いていただきたいと思います。

## いろいろなことを学びながら伝える方法を見つけていきたい

**―戦争や被爆体験を聞き、平和について伝えていくことは大切なことです。それを受け継ぐ若い世代として、どのように受け止め、伝えていきたいと思いますか。**

**永田**　もちろん、伝えていきたいと思いますが、正直、まだ伝え方がよく分かっていない状態です。広島で私が体験したことや私が感じる平和の大切さを、周りの人たちに少しでも伝えていこうとは思いますが、関心のない人には、なかなか聞いてもらえません。これから先、もっといろいろなことを学びながら、その方法を見つけていけたらいいなと思っています。

**園田**　「無関心が一番よくない」という谷口さんのお話にすごく共感しました。次の世代を担うのは自分たちなので、平和を考える時、戦争だけでなくて、自然環境などもっと身近なことから考えるのが、今を生きる僕たちの世代にできることではないかと思います。

**中川**　被爆や戦争を体験していない私たちは100％分かることはできないと思います。でも、体験した方々からお話を聞いたり、資料館に足を運んだりして、当時のことを少しでもイメージして、感じることが大切だと思います。ただ、その機会を得られないかたも多いので、当時を扱った映画やアニメ、漫画、小説などをコミュニケーションのきっかけにして、平和や戦争を一緒に考えてもらえるよう、伝える努力ができたらいいなと思いました。

➡4面では
平和の特派員6人に聞きました

ヒト 目さんにとっての平和とは？